

「日々の理科」(第 2676 号) 2021, 11, 10

「三日月と金星の大接近(3)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

今回の「月と金星の大接近」は、実はあまり天気予報が良くなって、観望の期待はしていなかった。しかし、夕方から宵にかけては、文京区は一時快晴になり、南西の空に非常によく見えた。



その「偽りの快晴」も限界があり、西の地平線のほうから徐々に雲が押し寄せてきた。最初は恒星もいくつか見えていたのだが、雲が出始めてからは月と金星以外の星はすべて見えなくなってしまった。



そんな状況でも、このカメラは威力を発揮してくれた。上層雲がかかって、やや霞んでいるものの、月の地形(クレーター)や、うっすらと地球照まで写っている。信頼できるコンデジである。



「雲間の月と金星」も長続きはしなかった。午後6時近く、本来なら最も美しく見えるはずの時間帯には、ほぼ完全に曇ってしまった。月はお化け屋敷に架かった三日月のように、不気味な光を残すのみとなった。



それでも金星もがんばり続けていた。さすがは -4.5 等級の惑星である。上の写真がこの日に撮影できた最後の写真だった。

次の大きな「天体イベント」は、11月19日(金)に起きる。この日は満月で、その満月が「地球の影」に入るのだ。「月食」である。実は完全な月食ではなく、月のごく一部が欠けずに残る「部分月食」なのだが、日食とちがって食分が大きいと、見ごたえがあり、今回のものは「ほぼ皆既月食」と言えるだろう。

月食が起きる時間帯も、夕方の16時30分頃から20時ぐらいまで、南西の低い空なので、非常に観望条件が良い。この月食に関しても、何かしらの観望ガイドを作る予定なので、是非授業で活用していただきたいと思っている。